

# あいち農産物生産流通レポート

平成31年2月号

	ページ
◎ 地域トピックス ・ 次はどこ行く？産直施設続々オープン！	(尾張農林水産事務所) 1
◎ 東日本情報 ・ 冬期のトマト類の動向と販売対策について	(東京事務所) 2
◎ 西日本情報 ・ 2018年の農業総合試験場の10大成果	(農業総合試験場) 4
・ 平成29年の県内卸売市場における青果物・花きの流通動向	(食育消費流通課) 6
◎ フラワーページ ・ 愛知県産花きの輸出促進に向けた産地ツアーの取組	(園芸農産課) 7
◎ 青果 ・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	9
・ 名古屋・東京市場における青果物の2月の見通し	10
◎ 花き ・ 切り花・鉢花の2月の見通し(県内市場)	22

※今月、「情報サロン」はありません。

## 内容についての問合せ先

愛知県農林水産部食育消費流通課 (052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ (03)-5492-5400

平成29年4月号から、「全国における主要農産物の輸出入実績」、「関連指数」のページはなくなりました。それぞれの情報につきましては、

### 【輸出入実績】

農林水産省ホームページ内「農林水産物輸出入統計」  
<http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/kokusai/index.html>

### 【消費者物価指数】

全 国：総務省統計局ホームページ内「消費者物価指数月報」  
<http://www.stat.go.jp/data/cpi/>  
名古屋：愛知県県民生活部「名古屋市消費者物価指数」  
<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/toukei/bukka.html>

### 【農作物価指数】

農林水産省大臣官房統計部「農作物価統計調査」  
<http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/noubukka/>

### 【名古屋市小売価格】

総務省統計局「小売物価統計調査」  
[http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020101.do?\\_toGL08020101\\_](http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020101.do?_toGL08020101_)

を御覧ください。



## 次はどこ行く？産直施設続々オープン！

尾張農林水産事務所

尾張地域では、JAの産直施設が相次いでオープンしています。産直巡りを楽しんで、地元ならではの逸品を見つけてみませんか。

### 1 「みのりん」がお出迎え！JA西春日井「アグリマルシェはるひ」



マスコットキャラ「みのりん」  
何を持ってるか探してみね



ご当地調味料がいっぱい！

JA西春日井は昨年12月、清須市に初の本格産直施設「アグリマルシェはるひ」をオープンしました。地元産の新鮮野菜はもちろんのこと、清洲城の朝市で評判になっている「かりもりの粕漬」など、手作り加工品が並んでいます。JAが手掛ける6次化オリジナル商品、「宮重大根さくら漬」や「信長玄米茶」もオススメです。

また、産直野菜を美味しくする地元企業の厳選調味料の品揃えは他にない魅力です。オープニングイベントでは、野菜や果物の詰め放題、ぜんざいのふるまいが大人気でした。現在、第2期工事中。3月にはグランドオープニングイベントを予定しています。どうぞお楽しみに！

### 2 若い人にも人気！JA愛知西「産直広場一色下方店」

JA愛知西は昨年4月、稲沢市に「産直広場一色下方店」を新築移転しました。トマト、なす、みつばといった旬の野菜や、ぎんなん、切花、花苗などの豊富な商品が揃っています。JA間連携で取り寄せた他県の特産品も高い人気です。移転前に比べて若い客層が増加中。クリスマスには、若手生産者がシクラメンの店頭販売を行い、大好評でした。2月のバレンタインにも同様のイベントを企画中ですので、ぜひどうぞ！



店長のオススメ  
「平和町産トマト」



北から南まで  
美味しい物揃ってます！

### 3 米粉パンが売り！JA愛知西「産直広場南小湊店」が間もなくオープン

3月には、一宮市に「産直広場南小湊店」が新設オープンします。こちらのうりは、何と言っても地元産のお米「あいちのかおり」と採れたて野菜を使った米粉パンの店内製造・販売です。一宮市の名物「一宮モーニング」を取り入れたイートインコーナーも設置予定。買い物の合間にほっと一息、焼きたてのもっちりパンの味を楽しんでみてください。

## 冬期のトマト類の動向と販売対策について

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

平成29年作（前作）のトマト類は、年明け以降に入荷量が増加する中で価格が低迷し、販売に苦戦しました。本作においても、年末年始に入荷が集中して価格を下げるなど、今後の動向が注視されています。

そこで今回は、本作のトマト類の動向を振り返るとともに、今後の入荷見通しと販売対策、有利販売に向けた関係機関の取組について紹介します。

### 1 今作の動向－前作と比較して－

前作の冬期を振り返ると、葉物野菜を中心に品薄傾向が続き価格が高騰する中で、トマト類も年末にかけて高値となりました。しかし、年明け後は高値反動が出たことに加え、厳しい寒さで生育が遅れていた他県産地のトマトが1～2月に集中して出荷され、消費が少ない冬場に供給過多となったことで価格が浮上しない情勢が続きました。

今作については、夏期の高温や9月の日照不足などの影響で草勢低下や着果不良が見られたものの、その後は生育が回復し、着花状況も良好となりました。11月下旬以降は、大玉トマト・ミニトマトともに他県産地を含め大玉傾向となり好調な出荷が続き、年末年始にかけての入荷量は前作を上回りました（図1、図2）。他の野菜も順調な出荷が続き、全般的に価格が低く推移する中、トマト類も12月から年明けの価格を下げましたが、一方で荷動きは良い状態となりました。また、品質面においては、12月に開催された市場担当者等による品質検討会で、大玉トマトでは他県産地のものを含めて味が薄いサンプルや甘さが不足したサンプルがみられ、食味の向上が望まれました。ミニトマトでは玉揃いや形状は概ね問題なく、食味も他県産より良い評価でした。

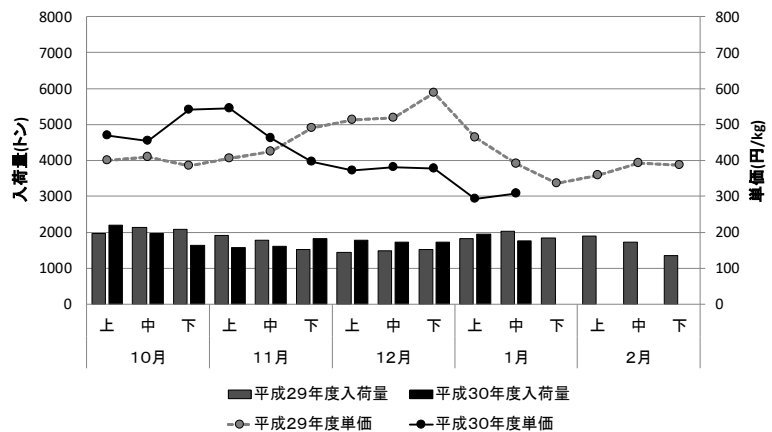


図1 トマトの入荷量及び単価推移

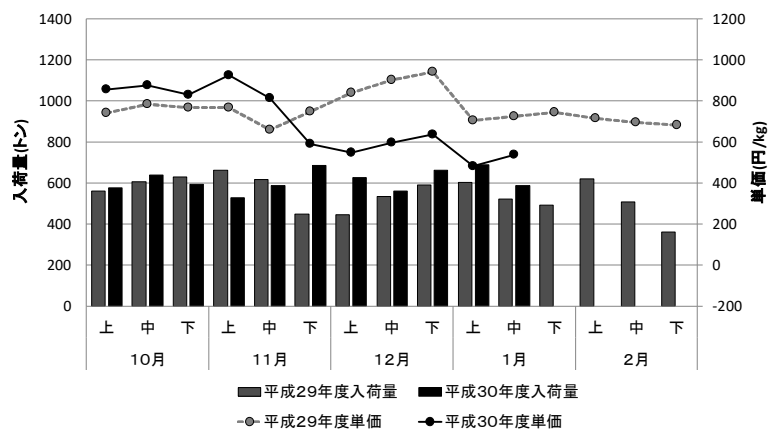


図2 ミニトマトの入荷量及び単価推移

※図1及び2は、東京都中央卸売市場の入荷実績

## 2 今後の入荷見通しと販売対策

県内産地の大玉トマトについては、1月中旬まで大玉傾向が続いたものの、その後は小玉傾向となることが予想されています。加えて低温で果実の着色の進みが遅くなることから、入荷量は1月中旬ごろから減少しはじめ、今後はダラダラとした入荷が続くと見込まれます。また、ミニトマトについては、年末の入荷ピークを越えたことから、大玉トマトより早く量が減り始めると見込まれています。

こうした中で、各市場では、前作のような荷動きの停滞や価格の低迷を回避するため、冬期の積極的な消費宣伝や、店頭での売り場の確保に向けた取組を行う方針です。冬期はトマト類の入荷量が減少する時期であり、量販店ではこの時期の販売促進活動に消極的な声もありますが、各市場としては試食宣伝等の販売促進活動を行い、販売の手を緩めずに積極的に売り込みを進めていく考えです。冬期のトマト類は食味も良いため、こうした取組により消費者にも本県産トマトの味を知ってもらい、需要の喚起がなされることを期待したいと思います。

## 3 京浜市場愛知県野菜連絡会 トマト・ミニトマト研究会の取組

京浜地区の卸売会社とJAあいち経済連東日本営業所、愛知県東京事務所農産物プロモーショングループで構成する組織「京浜市場愛知県野菜連絡会」では、下部組織として現場担当者によるトマト・ミニトマト研究会を設置しています。

この研究会では、トマト販売のポイントとなる時期（年末年始、厳寒期、春先）に合わせて年に3回品質検討会を実施し、他県産を含めた品質の査定結果や今後の販売方針を産地にフィードバックしています。また、11月と3月に本県のトマト・ミニトマト産地のほ場を視察して今後の入荷状況調査を行うほか、年に2回販売状況に関する情報交換会を開くなど、本県産トマトの有利販売に向けた様々な取組をしています。

トマト・ミニトマト研究会では、冬期の積極的な販売促進活動についても検討が行われており、今後も有利販売に向けた取組の提案や、京浜市場における販売動向の情報提供などを続けていきます。こうした活動が本県産トマトの評価の向上と販売拡大につながることを期待しています。



品質検討会での生産者との討議



品質検討会



本県産地のほ場視察

## 2018年の農業総合試験場の10大成果

農業総合試験場

農業総合試験場では、農業の発展や農家経営の改善のため、新しい品種や高度な栽培技術・飼養技術の開発を行っています。こうした試験研究について、広く県民の皆様に理解を深めていただくため、毎年、農業総合試験場の研究成果の中から、特に優れたものや社会的関心の高いものを「10大成果」として選定しています。この度、2018年の「10大成果」を選定しましたので、紹介します。

## 1 2018年の「10大成果」

第1位	餅の柔らかさが持続する水稻「愛知糯126号」を開発
第2位	感染性クローンを作出しトマト黄化葉巻病抵抗性トマトの評価法を開発
第3位	アオジソ新品種「愛経3号」を開発
第4位	肉用名古屋コーチンへのみりん粕給与技術を開発
第5位	頭上散水によるキクの高温対策技術を開発
第6位	モモ優良品種「さくひめ」の果実品質向上技術を開発
第7位	シソサビダニが媒介するシソモザイク病の総合的な防除技術を開発
第8位	パン用小麦品種「ゆめあかり」の省力施肥技術を開発
第9位	土壌残留農薬の分解促進技術を開発
第10位	環境制御機器導入効果試算シートを作成

## 2 選定方法

## (1) 選定委員

伊藤 博康	株式会社CBCテレビ報道局報道部	参事
柴田 智子	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会	消費生活アドバイザー
山内 章	名古屋大学大学院生命農学研究科	教授
吉澤 一幸	東海漬物株式会社漬物機能研究所	所長
今井 克彦	農業総合試験場	場長

(五十音順)

## (2) 選定の手順

選定委員が各研究成果に対し、「実用性」、「新規性」、「社会性」、「普及性」の項目について5段階で評価し、その合計点を得点としました。合計点の高い研究成果から、10大成果を選定しました。

### 3 成果の概要

2018年の「10大成果」には、生産物の品質向上、生産者の収益向上や省力化につながる新品種及び新技術の開発に加え、病害抵抗性品種の育成を強化する基礎技術の開発や、施設園芸での環境制御機器の導入を支援する試算シートの作成など、多岐にわたる研究成果が選定されました。このうち、上位3課題には、新品種2種及び品種育成の基礎技術が選定されました。

第1位：餅などの製品に加工した時に、従来の糯品種よりも柔らかさが長期間持続する水稻糯新品種「愛知糯126号」を開発しました。

第2位：トマト黄化葉巻病の抵抗性品種の育成を従来より効率的に行える技術として、感染性クローンを用いて黄化葉巻病のウイルスをトマトに短期間に接種でき、遺伝子検査で抵抗性の強弱をきめ細かく評価できる手法を開発しました。

第3位：低温期の栽培でも品質が優れ、収量性に優れるアオジソ新品種「愛経3号」を開発しました。

### 4 公表

農業総合試験場のWebページ (<https://www.pref.aichi.jp/nososi/>) で、10大成果の詳細がご覧いただけます。

#### 第1位

餅の柔らかさが持続する水稻「愛知糯126号」を開発



草姿（左）、粳（右上）、玄米（右下）

他糯品種との餅の柔らかさの比較

#### 第2位

感染性クローンを作成し  
トマト黄化葉巻病抵抗性トマトの  
評価法を開発



#### 第3位

アオジソ新品種「愛経3号」を開発



## 平成 29 年の県内卸売市場における青果物・花きの流通動向

食育消費流通課

## 1 名古屋市中心卸売市場及び県内地方卸売市場の青果物について

## (1) 平成 29 年の野菜及び果実取扱数量

野菜については、名古屋市中心卸売市場の取扱数量は 39 万 7 千 t（平成 24 年比 98.3%）で、5 年前より 7 千 t 減少しました（表 1）。このうち、県内産野菜は 7 万 t でした。一方、県内地方卸売市場の取扱数量は 11 万 9 千 t（同 72.3%）で、5 年前より 4 万 6 千 t 減少しました。このうち、県内産野菜は 5 万 t でした。

果実については、名古屋市中心卸売市場の取扱数量は 10 万 3 千 t（同 82.7%）で、5 年前より 2 万 2 千 t 減少しました。このうち、県内産果実は 1 万 1 千 t でした。一方、県内地方卸売市場の取扱数量は 4 万 6 千 t（同 71.5%）で、5 年前より 1 万 8 千 t 減少しました。このうち、県内産果実は 1 万 7 千 t でした。

## (2) 青果物の取扱数量における動向

県内地方卸売市場では、名古屋市中心卸売市場と比べ、野菜、果実ともに取扱数量の減少率が大きくなっています。その主な要因として、系統出荷や農産物直売所での販売等が増加し、地方卸売市場への出荷量が減少していることが挙げられます。

また、主要品目では、減少傾向にある品目が多い一方で、野菜のミニトマト、ブロッコリー、おおば、果実のりんごやかきの取扱数量が比較的安定しています。

表 1 県内卸売市場における青果物の取扱数量

[単位: 万 t]

		平成29年			平成24年		
		全体	県内産	県産シェア	全体	県内産	県産シェア
名古屋市中心	野菜	39.7	7.0	17.7%	40.4	8.1	20.1%
	果実	10.3	1.1	10.9%	12.5	1.4	11.4%
県内地方	野菜	11.9	5.0	41.9%	16.5	6.3	38.0%
	果実	4.6	1.7	37.3%	6.4	2.2	34.1%

(注) 表は小数点以下第 2 位を四捨五入しています。

## 2 県内地方卸売市場の花きについて

## (1) 平成 29 年の切花及び鉢物取扱数量

切花の取扱数量は 2 億 1 千 5 百万本（同 84.4%）で、5 年前より 3 千 9 百万本減少しました（表 2）。このうち、県内産切花は 9 千 4 百万本でした。

鉢物（花壇用苗物等含む）の取扱数量は 6 千 3 百万鉢（同 85.3%）で、5 年前より 1 千 1 百万鉢減少しました。このうち、県内産鉢物は 2 千 5 百万鉢でした。

## (2) 花きの取扱数量における動向

切花、鉢花ともに、市場全体及び県内産の取扱数量は減少傾向にあります。また、県内産では、切花は各品目において減少傾向にある一方で、鉢花は観葉植物が横ばい傾向（同 101.4%）にあり相対的な市場占有率を伸ばしています。

表 2 県内地方卸売市場における花きの取扱数量

[単位: 千万本、千万鉢]

		平成29年			平成24年		
		全体	県内産	県産シェア	全体	県内産	県産シェア
県内地方	切花	21.5	9.4	43.7%	25.4	11.2	44.2%
	鉢物	6.3	2.5	39.1%	7.4	3.1	42.2%

(注) 表は小数点以下第 2 位を四捨五入しています。



## 愛知県産花きの輸出促進に向けた産地ツアーの取組

園芸農産課

平成 29 年度に愛知県、愛知県花き温室園芸組合連合会、愛知県経済農業協同組合連合会で設立した「あいちの花き輸出促進実行委員会」では、人口減少で国内の花き需要が縮小傾向とされる中で、海外を新たなマーケットとして捉え、愛知県産花きの輸出に取り組んでいます。そうした中、平成 31 年 1 月に海外花きバイヤーを県内の主要な花き産地である東三河地域へ招いて視察ツアーを開催しましたので、概要を紹介します。

### 1 花き産地ツアーの概要

実行委員会による産地ツアーの開催は昨年度に続き 2 回目で、今回は中国、シンガポール、フランス、ドイツ、オーストラリアの 5 か国のバイヤーが参加し、スイートピー（田原市）、グロリオサ（田原市）、ガーベラ（豊川市）、バラ（豊川市）の 4 ほ場を訪問しました。

バイヤーは、各生産ほ場で実際に高品質な本県産花きを確認して、栽培管理などに感心するとともに、生産者の苦勞などに耳を傾けました。バイヤーからは、高品質な愛知県産花きの技術の高さを実感する良い機会であったという感想も聞かれました。



### 2 花き産地ツアーの成果

実行委員会では、産地ツアーに参加したバイヤーの反応から、どの国のバイヤーも高く評価する品目・品種（グロリオサの一部品種、スイートピーなど）や、国によって評価が分かれる品目・品種（スプレーバラなど）があることが判りました。

同時に、バイヤーとの対話の中で、日本からの輸入を必要としない品目・品種の情報もあり、海外マーケット向けに輸出の取組強化が可能な品目・品種について、継続的に情報を収集する必要があることを確認しました。

また、いずれのバイヤーからも、日本産花きは高品質である一方で高単価な点が指摘されており、輸送コストの低減などが今後の課題の一つであることを把握しました。



産地ツアーの様子

（上）スイートピー

（下）グロリオサ

### 3 今後の取組に向けて

得られた情報を活用し、今後も関係機関と連携しながら、国内外の展示会でのプロモーション活動などを通して本県産花きの PR と情報収集に努めていきます。また、こうした取組から得られた各国の情報を県内各産地や生産者にもフィードバックし、各産地の新たな出荷先として活用できるよう生産者及び生産者団体等と連携して愛知県産花きの輸出促進に取り組んでまいります。



## 愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ± 1 % 台以下  
 わずか : ± 2 % 台以内  
 や や : ± 3 ~ 5 % 台  
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台  
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

### ○ 名古屋中央卸売市場（品目：ブロッコリー）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	愛知産		
30年実績	5,774	1,499 (26%)	411	333	北海道 (17%) 鳥取 (16%) 長野 (14%)
31年見通し	5,900	—	390	—	
<b>概要と見通し</b>		<b>卸売市場から産地への要望・提言等</b>			
<p>前年秋の台風被害からは回復傾向にあるものの、干ばつの影響で小玉傾向となり、入荷量は減少している。2月中下旬までは少ない状況が続く見通しだが、台風後に定植した株の生育は良好で、まとまった雨と気温上昇があれば増量も見込まれる。価格は極端な高値だった前年同時期には及ばないが、平年に比べて高値推移するか。入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>		<p>露地栽培が中心となるため、天候や気温によって入荷の集中や端境が発生しやすい品目ではあるが、有利販売に向けて安定した出荷の維持をお願いしたい。</p> <p>また、現在は低温期で干ばつ傾向となっているが、今後降雨量が増えて気温が上昇した際の病害発生や黄変等の品質低下には十分な注意をお願いしたい。</p>			

### ○ 東京都中央卸売市場（品目：ブロッコリー）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	愛知産		
30年実績	28,114	3,487 (12%)	406	333	香川 (19%) 北海道 (15%) 埼玉 (12%)
31年見通し	28,000	—	390	—	
<b>概要と見通し</b>		<b>卸売市場から産地への要望・提言等</b>			
<p>前年は天候不順、台風、低温が続く各産地とも数量を減らした。特に愛知の減少幅は大きく、東京都中央卸売市場のシェアも17%から12%に減少した。対照的に香川は2%増やし、産地間で明暗を分ける結果となった。本年も秋に台風が襲来したが、その後の好天高温で生育は回復した。しかし年末からの低温・干ばつにより、生育は停滞し、小玉傾向で入荷量を減らしている。入荷量は前年並、価格は高騰した前年をやや下回る見込み。</p>		<p>全国的に産地が増加傾向にある。春先から夏にかけての流通面の品質劣化対策に取り組まれたことから消費が定着し、国産野菜として通年販売できる売れ筋商品になっている。</p> <p>愛知産は数量があり、品質面でも高い評価を受けている。今後も「愛知県産ブロッコリー」として安定した入荷量と精度の高い産地情報提供をお願いしたい。</p> <p>また、他産地も対策を進める中、春先以降は黄変や劣化に留意していただきたい。</p>			

名古屋・東京市場における青果物の2月の見通し

名古屋中央卸売市場

1月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜	26年	31,144	216	220	212	218	北海道 25%
	27年	31,348	227	227	227	229	愛知 24%
	28年	32,001	237	235	239	233	茨城 8%
	29年	30,542	237	237	241	224	静岡 6%
	30年	27,777	287	284	285	294	鹿児島 5%
	5ヵ年平均	30,562	240	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
31年見通し	28,000	231	—	—	—		
計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>愛知と北海道を中心に入荷する。年末の冷え込みで高騰した品目もあるが、1月前半は全体的に潤沢で販売に苦戦した。今後は暖冬による前倒しとその後の低温、干ばつで数量減が予想される。 入荷量は前年並で、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>						
だいこん	26年	1,879	84	77	90	89	静岡 55%
	27年	1,755	83	92	78	85	千葉 11%
	28年	1,771	79	83	72	88	神奈川 10%
	29年	1,709	90	90	90	95	徳島 10%
	30年	1,374	180	179	185	183	愛知 7%
	5ヵ年平均	1,697	100	100	99	104	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
31年見通し	1,700	80	80	80	80		
こ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>静岡を中心に徳島、千葉などから入荷する。1月現在は数量が多く販売に苦戦し、価格が低迷している。2月についても各産地ともに生育順調で太物が多く、引き続き安値となることが予想される。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>						
にんじん	26年	1,890	129	112	135	151	愛知 93%
	27年	2,055	73	69	75	78	千葉 2%
	28年	1,961	97	107	94	92	鹿児島 2%
	29年	1,994	138	135	138	141	茨城 2%
	30年	1,611	202	186	210	218	中国 1%
	5ヵ年平均	1,902	125	119	127	132	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
31年見通し	1,800	120	120	120	120		
ん	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>愛知主体の入荷となる。台風による愛知の不作予想から他県産の入荷が増加した。愛知は年内が例年より数量減となったが、台風後に蒔き直したものは順調で、入荷量が増えている。肥大状況も良好。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>						

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。  
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

1月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	26年	119,763	236	226	244	265	千葉 16%
	27年	119,044	246	243	246	249	茨城 14%
	28年	120,492	260	263	260	256	北海道 13%
	29年	117,268	256	254	259	256	愛知 9%
	30年	107,526	314	312	317	312	神奈川 7%
	5ヵ年平均	116,819	261	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	117,000	250	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>関東産地、愛知などからの入荷が中心となる。秋の好天により前倒しとなっていた生育も、年末から続く干ばつと低温により止まる。雨次第の状況がダラダラと続くが2月後半は数量も出ると見込まれる。  入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
だいこん	26年	12,056	89	79	114	74	神奈川 63%
	27年	12,073	92	97	85	94	千葉 30%
	28年	12,215	80	86	69	83	鹿児島 2%
	29年	11,607	90	87	92	93	徳島 2%
	30年	8,925	173	168	178	176	静岡 1%
	5ヵ年平均	11,375	101	100	104	100	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	10,000	95	100	95	90	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>神奈川、千葉を中心に入荷する。秋の好天をうけて前倒しによる潤沢な入荷が続いたが、年末からの少雨・干ばつで肥大が鈍る。今後は雨次第の面が強いが、今のところ入荷量への影響は小さいと見込まれる。  入荷量は不作となった前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
にんじん	26年	6,040	154	136	164	171	千葉 75%
	27年	6,657	85	84	84	88	茨城 8%
	28年	7,166	92	96	90	91	埼玉 8%
	29年	6,243	161	152	162	172	鹿児島 2%
	30年	6,287	178	179	178	176	台湾 2%
	5ヵ年平均	6,479	132	128	134	137	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	6,700	120	120	120	120	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉からの入荷が中心となる。年末の降雪で被害を受けた産地もあるが、既に肥大しているため影響は限定的とみられる。出荷ピークは過ぎており、月の後半は数量を徐々に減らす。  入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

1月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	26年	2,635	71	68	78	68	茨城 40%
	27年	2,778	65	66	62	71	兵庫 37%
	28年	2,296	85	79	78	108	愛知 17%
	29年	2,318	112	99	125	112	三重 3%
	30年	2,527	179	174	182	191	宮崎 2%
	5ヵ年平均	2,511	102	97	104	109	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	2,300	75	75	75		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>兵庫、茨城、愛知などから入荷する。各産地とも生育順調で、前進傾向と大玉傾向がみられる。入荷時期の前倒しにより2月前半は数量減となる見通し。また少雨が続いた場合は芯腐れの発生も懸念される。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
キヤベツ	26年	2,978	109	120	107	105	愛知 89%
	27年	3,519	91	91	95	96	茨城 3%
	28年	3,864	62	62	67	63	中国 3%
	29年	3,259	122	131	127	114	兵庫 2%
	30年	2,376	239	236	258	226	鹿児島 1%
	5ヵ年平均	3,199	116	119	121	113	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	2,800	90	90	90		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知主体の入荷となる。愛知は台風被害から回復傾向にあるが、干ばつで玉伸びは良くない。1月現在の日量は平年よりやや少なく、2月は降雨と気温の上昇があれば増量を見込むが、それでも平年並程度か。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
ほうれんそう	26年	357	412	413	418	443	愛知 65%
	27年	324	551	561	587	544	茨城 19%
	28年	294	581	616	583	577	群馬 5%
	29年	399	479	524	501	417	岐阜 5%
	30年	290	677	862	701	530	徳島 2%
	5ヵ年平均	332	531	583	549	495	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	320	580	600	550	600	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知を中心に茨城などからも入荷する。愛知は11月以降潤沢な入荷状況だが、前進出荷しているため、今後の入荷は落ち着く見通しで、2月は平年より数量が減少するとみられる。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

1月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	26年	13,019	71	68	81	60	茨城 64%
	27年	11,930	49	53	45	48	兵庫 18%
	28年	11,091	61	57	50	83	群馬 12%
	29年	11,287	99	87	111	103	埼玉 2%
	30年	12,466	164	161	156	184	愛知 2%
	5ヵ年平均	11,959	89	86	89	96	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	12,000	45	40	40	55	
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	茨城、群馬からの入荷が中心となる。年末からの干ばつの影響を受けるも、病気が減ったことで数量は潤沢。寒さで生育が抑えられているが、前年の影響で輸入品も入っており価格の回復には時間が必要か。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年の3割以下と大幅に下回る見込み。						
キヤベツ	26年	13,804	113	115	110	111	愛知 64%
	27年	14,711	94	96	94	92	千葉 15%
	28年	15,890	67	67	68	66	神奈川 14%
	29年	13,889	129	128	129	130	中国 3%
	30年	11,828	252	224	266	280	茨城 3%
	5ヵ年平均	14,024	125	121	127	129	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	14,000	100	100	100	100	
べ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	愛知、千葉、神奈川からの入荷が中心となる。各産地とも干ばつと低温で肥大が止まる。まとまった降雨で状況は変わるが、厳寒期のため大きな増量はないか。下旬以降はまとまった数量が出る見通し。入荷量は前年を大幅に上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。						
ほうれんそう	26年	1,476	483	412	553	514	茨城 30%
	27年	1,688	477	462	503	467	群馬 28%
	28年	1,380	534	634	479	481	埼玉 18%
	29年	1,718	408	424	419	373	千葉 15%
	30年	1,353	625	755	596	505	栃木 5%
	5ヵ年平均	1,523	499	527	506	464	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	1,450	520	520	520	520	
ん	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	茨城、群馬など関東産地からの入荷が中心となる。ハウス物は生育順調だが、露地物は低温・乾燥の影響で切り上がり早まる産地がある。大きな数量変化のない状態で入荷が続くと見込まれる。入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。						

名古屋市中央卸売市場

1月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	26年	827	405	347	491	415	大分 25%
	27年	944	341	343	346	348	静岡 20%
	28年	903	392	405	374	420	群馬 12%
	29年	755	442	407	476	460	愛知 10%
	30年	709	528	516	550	531	埼玉 6%
	5ヵ年平均	828	415	399	440	429	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	800	400	400	400	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>大分、静岡、群馬、愛知などの産地から入荷する。生育の遅れた荷が出てくる見通しで、2月は概ね平年並の入荷を見込む。愛知は台風被害の回復に時間がかかり、多くても平年並の数量となるか。入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
しそ	26年	1,529	226	228	213	241	兵庫 34%
	27年	1,620	285	275	295	286	静岡 15%
	28年	1,274	326	318	347	312	愛知 15%
	29年	1,445	241	263	241	222	熊本 11%
	30年	1,210	376	413	373	333	長崎 11%
	5ヵ年平均	1,415	286	294	289	276	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	1,200	320	350	330	300	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>兵庫を中心に静岡、愛知などから入荷する。出荷時期が前進しており、年内は入荷増の大幅な単価安となった。兵庫は出荷が前倒した分、2月の数量は落ち着く見通しで、他産地も同様の傾向がみられる。入荷量は前年並で、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。</p>					
きゅうり	26年	1,187	336	302	357	384	愛知 61%
	27年	1,152	365	424	358	325	宮崎 16%
	28年	1,158	412	491	387	366	高知 15%
	29年	1,180	304	328	302	278	鹿児島 7%
	30年	1,313	340	407	309	296	群馬 1%
	5ヵ年平均	1,198	351	390	342	329	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	1,160	360	420	360	300	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知を中心に宮崎などの西南暖地から入荷する。愛知は平年並の入荷状況で、病害虫も少なく、日照の増加とともに入荷量が増える見通し。他産地も順調で、全体でも概ね平年並の入荷量が見込まれる。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>					



東京都中央卸売市場

1月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	26年	4,601	397	311	507	380	千葉 39%
	27年	5,053	293	281	281	321	埼玉 23%
	28年	5,136	331	336	321	336	茨城 12%
	29年	4,456	371	339	398	384	群馬 7%
	30年	4,248	479	467	464	523	栃木 5%
	5ヵ年平均	4,699	370	344	389	384	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	4,700	310	310	310		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉県、埼玉県など関東産地からの入荷が中心となる。遅れ気味となっていた生育は好天により回復。乾燥の影響も懸念されるが降雨次第で平年並の入荷が見込まれる。入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
しそ	26年	7,098	216	221	207	219	静岡 37%
	27年	6,470	282	279	295	271	茨城 11%
	28年	6,289	310	306	329	294	千葉 10%
	29年	6,870	231	248	231	212	香川 7%
	30年	5,475	362	393	368	314	長崎 7%
	5ヵ年平均	6,440	276	284	281	271	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	6,100	220	230	220	210	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>静岡、茨城などを中心に入荷する。前進傾向だった生育は年末からの乾燥と低温で平年並に落ち着く。玉は既に十分肥大しており大玉傾向で、少なかった前年以上の数量は確保できると見込まれる。入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
きゅうり	26年	4,496	370	313	400	409	宮崎 32%
	27年	4,701	402	465	384	356	千葉 19%
	28年	4,986	446	526	409	404	群馬 15%
	29年	5,040	316	341	315	286	高知 14%
	30年	5,004	366	425	346	312	茨城 10%
	5ヵ年平均	4,845	380	415	370	352	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	5,100	400	440	380	380	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>宮崎、千葉、群馬、高知からの入荷が中心となる。好天により着花も樹勢も良好な産地が多い。一部で病害虫が散見されるも大勢に影響はなく、端境を迎える産地もあるが、後半に向け概ね増量していく。入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

1月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	26年	415	359	332	367	389	愛知 51%
	27年	406	437	451	448	417	熊本 43%
	28年	424	485	575	464	441	高知 6%
	29年	392	419	424	421	410	
	30年	412	437	439	435	439	
	5ヵ年平均	410	428	445	427	419	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	420	420	430	420	410	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知、熊本を中心に入荷する。両産地とも1月前半の入荷状況は順調。愛知は病害虫の発生も少なく、2月も順調な入荷見通し。厳寒期のため、階級はL中心となり、入荷量の大きな増減もないとみられる。入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
ト マ ト	26年	870	370	337	362	423	熊本 51%
	27年	856	447	402	450	493	愛知 28%
	28年	978	437	519	395	403	三重 10%
	29年	950	372	391	374	350	岐阜 9%
	30年	972	336	311	352	355	高知 1%
	5ヵ年平均	925	392	393	386	402	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	930	380	380	400	360	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知を中心に入荷する。前進出荷により12月から1月前半は平年に比べ入荷が多かった。熊本は前進出荷の分、2月は数量減を見込む。愛知は生育良好で、平年並の入荷予想。サイズはLM玉中心か。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	26年	294	733	670	753	786	熊本 56%
	27年	301	847	793	868	872	愛知 28%
	28年	332	932	945	913	937	宮崎 8%
	29年	335	793	814	798	780	和歌山 7%
	30年	374	745	759	738	736	
	5ヵ年平均	327	809	798	812	820	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	330	750	700	750	800	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知を中心に入荷する。秋の好天に恵まれたため、成り疲れ傾向がみられ、上中旬は若干の入荷減を見込む。価格は厳寒期のため厳しい販売が続く予想。愛知は作付増により入荷量が1～2割増えるか。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並となる見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

1月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	26年	2,002	430	375	468	465	高知 64%
	27年	1,937	499	559	504	443	福岡 15%
	28年	2,250	488	554	456	463	熊本 9%
	29年	2,114	466	459	465	475	佐賀 5%
	30年	1,904	513	503	506	540	栃木 3%
	5ヵ年平均	2,041	479	491	479	476	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	2,100	450	470	450	430	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>高知からの入荷が中心となる。12月の天候不順の影響で停滞した入荷は徐々に回復し、2月は後半に向けてまとまった入荷が見込まれる。好天と乾燥により害虫の発生が散見されるも影響は小さいか。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
ト マ ト	26年	4,982	383	354	373	455	熊本 35%
	27年	4,708	470	424	485	506	栃木 22%
	28年	5,387	474	553	438	433	愛知 12%
	29年	5,447	404	433	406	370	千葉 4%
	30年	4,972	378	359	392	387	群馬 4%
	5ヵ年平均	5,099	422	427	418	428	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	4,900	350	350	350	350	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、栃木、愛知を中心に入荷する。年明けに爆発的に増えた熊本は落ち着きを見せつつある。各産地も低温で生育が抑えられるが、好天により着花や肥大の不安はなく、価格を押し上げる要素が乏しい。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	26年	1,251	704	629	735	780	熊本 40%
	27年	1,161	845	791	881	865	宮崎 18%
	28年	1,339	951	1,007	911	932	愛知 17%
	29年	1,433	715	742	702	695	千葉 8%
	30年	1,486	701	716	696	683	静岡 7%
	5ヵ年平均	1,334	780	777	780	785	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	1,500	710	720	710	700	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、宮崎、愛知などからの入荷となる。成り疲れや以前の天候不順の影響から入荷量は一時的に減るが、各産地とも極端な増減はせずに回復に向かう。秋より続く豊作基調は収束へと向かうか。 入荷量、価格はともに前年並の見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

1月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	26年	364	666	652	658	679	鹿児島 51%
	27年	405	719	724	727	710	宮崎 34%
	28年	380	768	825	787	703	高知 15%
	29年	442	575	604	602	528	
	30年	382	737	757	742	677	
	5ヵ年平均	394	690	710	701	656	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	400	700	720	700	680	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
鹿児島、宮崎、高知からほぼ全量を入荷する。年内まで前進出荷したため、年明け後の数量は若干少ない状況が続く。入荷が落ち着いたため、今後の価格は高めで推移していくか。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をやや下回る見込み。							
ばれいしょ	26年	2,722	119	113	116	125	北海道 61%
	27年	3,120	130	120	129	137	鹿児島 30%
	28年	3,040	189	177	206	181	長崎 9%
	29年	2,676	238	225	250	243	
	30年	2,547	144	136	151	148	
	5ヵ年平均	2,821	164	154	170	166	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	2,500	130	130	130	130	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道、鹿児島を中心に、一部長崎から入荷する。北海道の計画出荷分は平年より少なめの入荷量となる見込みだが、鹿児島は生育順調で大玉傾向。長崎は前半に入荷が終了する見通し。 入荷量は前年並だが平年より少なく、価格は前年をかなり下回る見込み。							
たまねぎ	26年	5,072	126	139	134	135	北海道 92%
	27年	4,999	102	101	103	108	静岡 6%
	28年	6,413	85	82	91	89	愛知 1%
	29年	6,218	87	86	93	84	京都 1%
	30年	5,519	104	102	102	115	
	5ヵ年平均	5,644	100	100	103	105	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	5,100	125	125	125	125	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道主体の入荷となる。北海道は1月に引き続き、2月の入荷量も平年より少ない見通し。静岡、愛知の新たまねぎは暖秋により大玉傾向。愛知の極早生は前年少なかったが、本年は平年並の入荷を見込む。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。							

東京都中央卸売市場

1月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	26年	1,288	671	666	667	681	宮崎 45%
	27年	1,295	730	751	730	704	高知 21%
	28年	1,324	799	881	812	703	茨城 18%
	29年	1,516	595	626	616	542	鹿児島 17%
	30年	1,358	757	802	768	672	
	5ヵ年平均	1,356	707	743	716	657	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	1,400	720	730	730	700	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>宮崎などの西南暖地、茨城を中心に入荷する。年内の天候不順により1月に入荷を減らしていた九州産地は回復傾向にある。茨城の生育も順調で、前年並の入荷が見込まれる。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
ばれいしょ	26年	8,893	110	105	110	118	北海道 74%
	27年	8,251	115	107	114	127	鹿児島 20%
	28年	6,945	182	178	181	188	長崎 6%
	29年	6,604	227	224	231	226	
	30年	7,410	129	128	134	122	
	5ヵ年平均	7,621	148	144	149	152	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	7,500	110	110	110	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、鹿児島、長崎からの入荷がほとんどを占める。北海道は貯蔵量が少ないため大きな変動がないものの、鹿児島、長崎からの入荷が増え、入荷量は前年並の水準となる見込み。 入荷量は前年並、価格は入荷量の回復に伴い前年をかなり下回る見込み。</p>					
たまねぎ	26年	10,028	145	144	146	144	北海道 81%
	27年	10,546	112	110	111	117	静岡 14%
	28年	11,034	98	93	101	99	中国 4%
	29年	11,722	104	100	103	110	長崎 1%
	30年	10,294	121	118	124	122	愛知 1%
	5ヵ年平均	10,725	115	112	116	118	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	9,800	135	140	140	125	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に静岡、長崎から入荷する。ばれいしょ同様に北海道の貯蔵量が少ない。中旬以降にピークを迎える静岡も低温、干ばつにより入荷が伸び悩む。後半以降は回復に向かうも品薄感が残るか。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

1月17日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	26年	8,854	364	352	348	387	青森 20%
	27年	8,543	383	370	392	385	愛媛 14%
	28年	7,698	422	409	424	440	フィリピン 14%
	29年	7,821	400	379	396	435	愛知 12%
	30年	7,115	431	422	432	419	静岡 11%
	5ヵ年平均	8,006	398	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	7,300	390	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	いちご、りんご、みかんなどが主な品目となる。年末の冷え込みもあったが、暖冬により全体的に前進傾向。みかんでは切り上がりの前進も予想され、2月の入荷量は平年を下回る見通し。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。						
り	26年	1,654	304	304	305	306	青森 95%
	27年	1,932	302	303	301	304	秋田 3%
	28年	1,876	322	326	321	326	長野 1%
	29年	1,522	308	321	297	299	岩手 1%
	30年	1,476	325	319	329	331	
	5ヵ年平均	1,692	312	314	310	313	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	1,500	300	300	300	300	
んご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	青森が主産地となる。前年は他品目の不作で冬場の引き合いが強かった分、3月以降の入荷量が減少して高値となったが、本年は例年より在庫が多い現状。品質面では台風の影響で傷や擦れ等の発生が目立つ。 入荷量は前年並で、価格は前年をかなり下回る見込み。						
い	26年	946	1,218	1,285	1,260	1,120	愛知 61%
	27年	849	1,332	1,412	1,366	1,229	熊本 23%
	28年	683	1,465	1,522	1,416	1,448	鹿児島 6%
	29年	825	1,234	1,360	1,225	1,125	佐賀 3%
	30年	785	1,292	1,437	1,278	1,138	岐阜 2%
	5ヵ年平均	817	1,300	1,395	1,304	1,202	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	780	1,250	1,300	1,250	1,200	
ちご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	愛知、熊本を中心に入荷する。好天に恵まれ、気温も高いため、生育は前進傾向。愛知では2番果のピークが例年の2月上旬から1月下旬に前倒しする見通し。 入荷量は前年並で、価格は前年をやや下回る見込み。						

東京都中央卸売市場

1月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	26年	36,856	377	375	378	377	青森 19%
	27年	36,226	410	457	385	405	愛媛 16%
	28年	33,594	461	452	470	465	静岡 14%
	29年	36,884	438	425	448	446	栃木 7%
	30年	32,174	489	475	503	494	フィリピン 6%
	5ヵ年平均	35,147	433	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	36,000	430	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	りんご、みかん、いちごを中心に晩柑類の入荷が本格化する。柑橘類は全体的に干ばつの影響で小玉傾向の見込み。みかん類の数量は多いが、前年より安値のため引き合いも強く、今後は価格上昇の見通し。入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。						
りんご	26年	5,755	291	293	289	292	青森 95%
	27年	7,237	282	270	278	277	長野 2%
	28年	7,365	304	295	306	311	秋田 1%
	29年	6,713	284	292	283	273	
	30年	6,403	305	300	308	310	
	5ヵ年平均	6,695	293	290	293	293	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	6,400	290	290	290	290	
梨	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	青森を中心に入荷する。ふじは前年の台風被害と天候不順の影響で、傷果や着色不良等の下位等級が多い見込みだが、不足感はない。ジョナゴールドは有袋品となり、前年数量を下回る見込み。入荷量は前年並となり、価格は下位等級が多く前年をやや下回る見込み。						
いちご	26年	4,192	1,233	1,290	1,253	1,153	栃木 47%
	27年	3,948	1,402	1,481	1,279	1,388	福岡 17%
	28年	3,813	1,445	1,568	1,414	1,347	茨城 12%
	29年	4,850	1,260	1,319	1,259	1,193	静岡 8%
	30年	4,624	1,337	1,388	1,336	1,270	佐賀 5%
	5ヵ年平均	4,285	1,330	1,402	1,306	1,265	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	4,500	1,330	1,380	1,330	1,280	
いちご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	栃木を中心に福岡、茨城などから入荷する。栃木は前進出荷のため2月の入荷量が減少する見込み。福岡は2番果が上旬に出荷ピークとなり前年並の入荷見込み。全体的に下旬は出荷の谷間となる可能性あり。入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年並となる見込み。						

## 切花・鉢花の2月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 2月1日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き	
	実績等					
輪 ぎ	実績	26年	1,457	47		
		27年	1,365	60		
		28年	1,709	54		
		29年	1,324	49		
30年		1,676	45			
5ヶ年平均		1,506	51			
31年見通し		1,500	45			
概要	愛知、沖縄、三重などから入荷する。落ち着いた入荷が見込まれる。沖縄ではスプレーマムの生産にシフトしている部分もあり、前年よりも生産減となっている。					
小 ぎ	実績	26年	1,002	25		
		27年	1,136	38		
		28年	1,134	39		
		29年	868	30		
30年		912	37			
5ヶ年平均		1,010	34			
31年見通し		900	35			
概要	沖縄を中心に入荷する。台風後に定植した物が順次出てくるが大幅な増加は見込めず、中旬までは少なめで前年並の入荷と思われる。					
カー ネ ー シ ョ ン	実績	26年	915	42		
		27年	873	46		
		28年	914	48		
		29年	843	34		
30年		929	43			
5ヶ年平均		895	43			
31年見通し		900	43			
概要	愛知を中心に和歌山、長野から入荷する。本作は年内が暖かく、年明けは冷え込んだことにより生育、本数、需要のバランスが取れているので、前年より安定した取引となる。					
か す み	実績	26年	178	68		
		27年	199	68		
		28年	197	71		
		29年	180	59		
30年		167	86			
5ヶ年平均		184	70			
31年見通し		180	70			
概要	高知、和歌山、熊本から入荷する。気候条件がよく、やや前進傾向で推移している。3月出荷分が前倒して前年より多い入荷となる見込み。上位等級は業務中心の販売。中旬以降はバレンタイン、節句などの需要も見込め下位等級が活発に動いてくる。相場は後半から上がってくる。					



単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆ り	実績	26年	239	205	
		27年	225	207	
		28年	281	175	
		29年	230	164	
		30年	224	199	
	5ヶ年平均	240	189		
31年見通し	230	190			
概要	<p>オリエンタルは高知、埼玉、宮崎、愛知などから入荷する。入荷状況は安定している。一般需要は少なく、業務中心の販売。品種により価格差がある。LA、鉄砲はやや少ない入荷となるが、販売は苦戦する見込み。</p>				
洋 ら ん	実績	26年	432	77	
		27年	444	77	
		28年	453	82	
		29年	350	80	
		30年	364	96	
	5ヶ年平均	409	82		
31年見通し	360	90			
概要	<p>高知、徳島、愛知、宮崎などの国産に加え、輸入品が入荷する。低温の影響もあり上旬の入荷は少なめに推移し、中旬頃より少しずつ増えてくると思われる。</p>				
ば ら	実績	26年	632	94	
		27年	610	87	
		28年	657	83	
		29年	558	75	
		30年	654	83	
	5ヶ年平均	622	85		
31年見通し	630	83			
概要	<p>愛知、三重、岐阜、和歌山を中心に入荷する。1月は少なめに推移したが、中旬以降は平年並の入荷に回復してくる。上旬はバレンタイン等イベントの引き合いもあり、堅調な販売が見込まれる。</p>				
枝 も の	実績	26年	1,871	39	
		27年	1,732	42	
		28年	1,656	44	
		29年	1,437	43	
		30年	1,519	49	
	5ヶ年平均	1,643	43		
31年見通し	1,500	49			
概要	<p>花桃の本格的な出荷が始まり、需要期の中下旬は、需要と供給のバランスから安定した取引となる見込み。3月のミモザの日に向け、ミモザアカシアの引き合いが非常に強まり、ユーカリも1か月を通して堅調な動きをする。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
エ リ カ	実 績	26年	11,479	196	
		27年	11,000	211	
		28年	10,881	209	
		29年	7,391	184	
		30年	5,581	194	
	5ヶ年平均		9,266	201	
	31年見通し		5,500	191	
概要	<p>入荷量は前年並で推移する。3～4号の小鉢が入荷の大半を占める。寒さの影響で価格は変動するが、全体的に安値傾向で厳しい情勢が予想される。 前年2月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位新潟（44.0%）、2位静岡（26.5%）、3位長野（18.7%）となっている。</p>				
プ リ ム ラ	実 績	26年	288,174	89	
		27年	252,352	84	
		28年	208,852	102	
		29年	251,311	85	
		30年	223,289	84	
	5ヶ年平均		244,796	89	
	30年見通し		210,000	86	
概要	<p>入荷量は前年よりかなり減少するか。ポリアンサ、ジュリアンなどの生産自体が比較的少なくなっていることが要因となる。価格は良くて例年並か。 前年2月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知（48.8%）、2位埼玉（11.2%）、3位三重（8.3%）となっている。</p>				
チ ュー リ ッ プ	実 績	26年	38,809	189	
		27年	40,200	201	
		28年	37,189	200	
		29年	28,077	180	
		30年	29,409	146	
	5ヶ年平均		34,737	185	
	31年見通し		28,000	146	
概要	<p>入荷量は前年よりやや減少するか。6号以上はかなり少ないと思われる。4号、5号サイズが入荷の中心となり、3号以下は少ない見込み。引き合いも4号、5号が強い。 前年2月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知（32.0%）、2位埼玉（22.4%）、3位茨城（21.7%）となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
サイネリア	実績	26年	64,250	245	
		27年	62,598	240	
		28年	74,095	249	
		29年	60,599	229	
		30年	58,896	229	
	5ヶ年平均		64,088	239	
	31年見通し		57,000	219	
概要	<p>5号、6号鉢は生産量の減少とともに入荷量もやや減少する見込み。4号鉢は前年並のため、全体としてはやや減少するか。卒業や卒園需要が高まる2月下旬から3月上旬にかけて引き合いとともに相場は安定するが、それまでは前年より厳しい予想。 前年2月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位埼玉(24.5%)、2位愛知(16.7%)、3位香川(12.7%)となっている。</p>				
マーガレット	実績	26年	54,656	161	
		27年	63,089	164	
		28年	58,597	185	
		29年	47,725	170	
		30年	51,402	172	
	5ヶ年平均		55,094	170	
	31年見通し		52,000	171	
概要	<p>入荷量は前年並か。12月が例年よりも暖かかったために開花が早まる傾向があり、3月納品分が前倒しになった。価格面では4号中心に引き合いがあり、注文を含めて例年並を見込んでいる。 前年2月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知(24.0%)、2位静岡(23.9%)、3位埼玉(19.3%)となっている。</p>				
デンドロビウム	実績	26年	30,506	866	
		27年	31,288	881	
		28年	32,626	811	
		29年	25,502	712	
		30年	24,597	653	
	5ヶ年平均		28,904	794	
	31年見通し		23,000	652	
概要	<p>入荷量は前年よりかなり減少するか。前年に相場がかなり低迷したため、生産を辞めたり、作付けを減らした生産者が多い。特に8号以上の大鉢はかなり少ない。2月は気温が低くても固めの出荷をお願いしたい。また、ミックス出荷の方が好まれる傾向にある。 前年2月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知(38.9%)、2位高知(22.7%)、3位宮崎(8.2%)となっている。</p>				



## いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.548  
平成31年2月発行  
農林水産部食育消費流通課  
〒460-8501  
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号  
電話 (052) 954-6434